

第1報 調査対象と調査の概要

○昭和女大短大 天野寛子 同女文研 伊藤セツ 同短大 森ます美 瀬沼頼子
日本女子大(非) 天野晴子 昭和女大(院) 堀内かおる 大船高校(非) 井野上眞弓

目的：高齢社会の到来は、国や自治体また日本人に多くの問題を提起し、すでにさまざまの分野で取り組みがなされている。こうした問題の一つが高齢期の生活の充実にかかわる生活行動である。都心に近く都内でも高齢化がすすんでいる世田谷区に在住の夫妻の生活時間調査とアンケート調査を行い、生活行動の様式、さらにそれが高齢期に向けての準備的な意味をもつか、余暇享受能力は形成されつつあるか、といった観点から、現状および今後の方向を把握することを目的とする。第1報では、調査対象の特徴と生活時間の概要を述べる。

方法：調査日は、1990年9-10月の平日・土曜・休日の各1日とし、世田谷区在住の夫妻および50歳以上の単身者を対象に公募を行い、調査協力を申し出た人に対して、郵送留置自記方式で生活時間およびアンケート調査を実施し、郵送により回収した。

結果：夫妻132組単身者34人計298人を回収した。第1報では夫が有職の夫妻110組(220人)について、妻の職の有無・勤務形態別に分析した。平均年齢夫47.7歳、妻44.8歳、平均世帯人員3.7人である。結果の一部を表に示した。特徴は、通勤時間が短く、性別役割分業は依然として続いているが、常勤の妻では平・土・休日ともに家事的な生活時間よりも社会的・文化的な生活時間の方が長いことである。

平日の夫妻の生活時間(単位：時間、分)

	妻無職		妻パート		妻常勤	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻
生理的生活時間	10.30	10.41	9.48	10.14	10.20	9.51
収入労働時間	10.16	0.08	10.49	5.27	9.57	8.58
家事的な生活時間	0.03	6.56	0.01	3.45	0.18	2.20
社会的文化的な生活時間	3.11	6.15	3.22	4.34	3.25	2.51